Osaki

おおさき
～大きい輪、和、話～

復興へ頑張ろう！みやぎ

VOL. 138
平成28年２月19日発行

宮城県大崎農業改良普及センター
〒989-6117 大崎市古川旭四丁目１番地１号
ＴＥＬ （0229）91－0727（地域農業班）
（0229）91－0726（先進技術班）
ＦＡＸ （0229）23－0910
HP http://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/
E-mail osnokai@pref.miyagi.jp

野菜の栽培技術指導（大崎市岩出山）

世界農業遺産を目指す「大崎耕土」

大崎市、色麻町、加美町、涌谷町、美里町が連携し、「大崎耕土」の世界農業遺産認定を目指しています。その内容は、中世から整備されてきた用排水路やため池、遊水地を活かして巧みな水管理を行う持続可能な水田農業システムが構築されたことと、そのシステムにより多様な生態系や伝統文化が育まれてきたことを主旨としています。先人達が脈々と築き上げてきたこのシステムの恩恵により、大崎農業改良普及センター管内では平成二十七年産の水稲で一万二千ヘクタール、大豆で二千百ヘクタールが作付けされ、全国屈指の産地となっています。

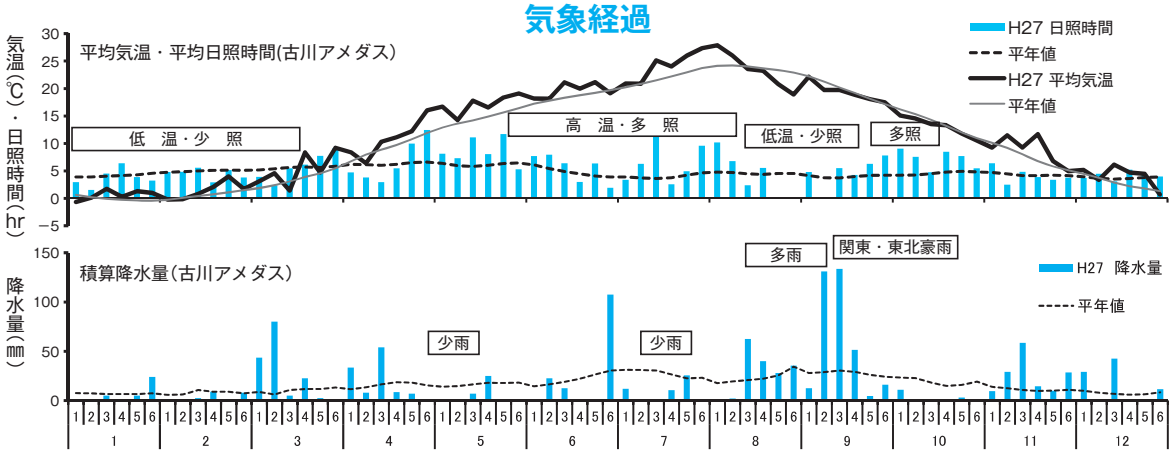
この水田農業システムがさらに持続されるためにも、農地中間管理事業などを活用し、担い手等への農地の集積・集約化を推進してまいります。

また、管内では、県内で利用される水稲種子の約六割が生産されるとともに、各種米関連プロジェクトも展開され、多種多様な米づくりが行われています。

普及センターでは、これらの土地利用型農業をはじめとして、園芸・畜産経営に関する各種技術情報の提供や、新たに農業を始める方への支援、さらには加工・業務用野菜の産地化なども積極的に推進しております。今後もこの「大崎耕土」の農業が益々活性化するようご理解・ご協力をお願いいたします。

大崎農業改良普及センター技術次長　鈴木　英作

平成27年の気象と農作物の作柄



【水稲】

田植期から出穂期まで高温・多照で経過したことから，生育は旺盛に推移し，全籾数は「やや多い」となったものの，出穂期以降は少照・多雨傾向で推移したことから，登熟は「やや不良」となりました。県北部の作況指数は103の「やや良」（547kg/10a）となりました。特に，９月11日の「関東・東北豪雨」では，一部のほ場で冠水・浸水被害が発生し，大きな被害を受けました。

【麦類】

一昨年秋の播種時の好天により，適期播種が行われましたが，越冬期間の降雨・降雪により，生育が停滞したほ場も見られました。３月下旬以降は高温で生育が進み，出穂期及び成熟期は平年より６～９日早まりました。小麦は，収量は平年より多く，品質は管内全体の１等比率が７割となりました。一方，大麦は，収量は平年より著しく低く，品質は全量２等となりました。

【大豆】

開花期頃までは生育が旺盛となり，やや蔓化傾向でした。開花期以降は適度な降雨があり，莢付きも良好でしたが，登熟後期の少雨により早期に落葉し，子実に比べて茎の乾燥が不均一となりました。収量は平年並となり，品質は病害粒は少ないものの，虫害粒や刈り遅れによる汚粒が多い傾向でした。「関東・東北豪雨」により，一部のほ場で冠水・浸水等の被害を受け，腐敗粒・くず粒の増加等により，収量・品質が著しく低下しました。

【野菜】

春キャベツの生育は，５月の少雨によりやや生育が停滞しましたが，６月の降雨以降は順調な生育でした。秋冬キャベツの育苗期は高温，定植期には高温・乾燥が続いたため，全般的に小玉でした。

たまねぎは，収穫期にあたる梅雨期に日照が多く全般的な生育は良好となり，昨年よりも収穫は約１週間早く，収量も多くなりました。

施設なすでは，５月にアブラムシが多発しました。７月中旬までは前年より３割程度収量が多く推移しましたが，８月上旬頃は成り疲れとなり，その後の収穫量は10月まで伸び悩みました。

加工トマトは，６月以降の好天に恵まれ生育・果実肥大ともに良好でした。７月下旬から８月中旬まで収穫は順調でしたが，８月下旬以降の曇天・降雨により収穫量は激減しました。

秋冬ねぎは定植期の５月に降水量が少なく全般的に定植が遅れました。８月下旬以降の曇天や豪雨による影響から収穫遅延により，規格外品が多く，品質低下が見られる地域がありました。

【果樹（りんご）】

色麻町南山地区での満開期は５月２日で，平年より７日早い状況でした。開花期間中は好天が続き，結実は良好でした。結実後は高温・少雨傾向が続き，果実肥大は良好でした。生育期間中は多照傾向であったため，病害の発生は少なかったものの，ハダニ類の発生が多く，追加防除を行うほ場も見られました。

【花き】

４月下旬から８月上旬まで記録的な高温・多照であった一方で，８月中旬から９月上旬までは一転して低温と日照不足が続き，花き生産者にとっては厳しい栽培環境でした。

８月出しは，高温等により開花が前進化したほか，アブラムシ等の発生が多い傾向でした。９月出しは，低温と日照不足等により開花が遅延したほか，ややボリューム不足のものも見られました。

平成27年度農地中間管理事業の管内の動き

農地中間管理事業は，地域内に分散・錯綜する農地を担い手などへ集積・集約化することを目的として，平成26年度から実施されています。宮城県では，公益社団法人みやぎ農業振興公社が農地中間管理機構に指定され，県や各市町，ＪＡなど関係機関と連携しながら，農地の貸付希望者（出し手）及び借受希望者（受け手）の募集，制度の周知などを進めてきました。

平成26年度は制度が始まった初年度ということもあり，大崎圏域における機構を通じた農地転貸は59件，129haに留まりましたが，今年度は，さらに事業の周知，現場での推進を続けた結果，平成27年12月現在で，農地の転貸は669件，815haと，昨年度の6.3倍の実績となる見込みとなりました。それに伴い，機構集積協力金として約３億６千万円が地域や農家に交付される見込みです。

表．大崎圏域の農地中間管理事業進捗状況

市　町	H26年度実績		H27年度見込み	
	件数	面積(ha)	件数	面積(ha)
大崎市	3	5	252	288
色麻町	11	70	36	71
加美町	4	10	148	206
涌谷町	28	33	76	62
美里町	13	12	157	188
大崎圏域	59	129	669	815
宮城県	320	450	2,989	2,884

集落営農組織の法人化と農地集積による経営力の強化～農事組合法人いかずち～

加美町小野田雷（いかずち）地区において，平成27年８月６日に「農事組合法人いかずち」が設立されました。昭和38年から開始し，今年で53年目となる水稲採種事業及び，個別経営の畜産部門に供給する飼料作物生産が主な部門です。

平成24年頃から，水稲採種事業において，ほ場の確認作業や稲ばか苗病の抜取作業など労働負担が増加し，また，個人所有の農業機械更新時のコスト増加などの課題を解決するため，法人化に向けた機運が高まりました。

平成25年～26年には，関係機関と連携した役員会や集落の全体会，専門家派遣による勉強会を開催するなど，一つ一つ課題解決と理解促進に努めました。

平成28年１月には，農地中間管理事業を活用して地区内農地面積145.8haのうち83％を占める121haの農地が法人に集積されました。また，機構集積協力金を活用し，春作業を効率化するための８条植え田植機の導入や，種子用コンバインの導入等を行い，効率的な作業による事業運営強化を図る予定です。

今後の取組としては，効率的な作業体系実現に向けた作業班体制の再構築を行うとともに，水稲採種ほ場の団地化及び周辺ほ場への稲ホールクロップサイレージ等の飼料作物の作付けを行うことで，稲ばか苗病発生リスクの軽減を目指します。さらには，共同育苗施設の導入や新規作物の導入を視野に，さらなる法人経営の強化を目指すことにしています。

【地区等の概要】

- 地区内農家戸数　44戸
- 地区内農地面積　145.8ha
- 平成27年度農地中間管理事業を活用した法人への農地集積面積　121ha(集積率83％)

農事組合法人いかずち創立総会

水稲採種ほ場の巡回指導

全体会における法人化支援

普及センターが取り組む プロジェクト課題の活動紹介

加工･業務用野菜産地の拡大に向けて

現在栽培出荷されている野菜の約６割が加工・業務用向けに利用されているといわれています。

普及センターでは今年度まで２年間，ＪＡ加美よつば管内のたまねぎとＪＡ古川管内の露地なすの生産拡大に向けたプロジェクト課題に取り組みました。

たまねぎの機械収穫の様子

①たまねぎの機械化栽培に向けた技術支援

今年度はたまねぎの機械化一貫体系に関して，除草機による実演を４月16日に行い，機械除草のタイミングや追肥などに関する省力化についての検討を行いました。

また，６月には部会員が注目する中，収穫に関する掘取り機や拾上げ機，選別調製機などの一連の機械作業を実演するとともに，今年度新たにＪＡが整備した色麻町の乾燥施設を使用して，一連の作業体系の実証を行いました。

②露地なすの栽培支援

露地なす栽培で最も労力のかかる作業はうね立てとマルチがけ作業です。今年度はＪＡ古川が導入したうね整形マルチャーの使用にあたり，５月11日に実演会を開催したことで，生産者が機械を活用して省力的に定植準備を行うことができ，その後の栽培管理作業に集中して取組むことができるようになりました。また，施肥方法や機械の活用法について検討した結果，全層施肥と，うね整形マルチャーの導入により十分な収量が得られ，定植準備に係る労働時間は手作業の約８割削減できることが分かりました。

普及センターでは，たまねぎと露地なす栽培について，新規作付者にもわかりやすい「栽培マニュアル」を作成し，安定生産と新規取組者の掘り起こしを支援してまいります。

法人化を契機に経営の高度化を目指して

近年，家族経営の世代交代や経営体質強化，集落営農組織での生産基盤強化などのために法人化する経営体が増えてきており，管内では，平成25年度から昨年末までに12の家族経営，集落営農組織が新たに株式会社や農事組合法人へと法人化しました。

しかし，法人化直後には，会計や雇用体制なども変わることから経営管理に戸惑う経営体が見られます。

普及センターでは，昨年度から法人化して間もない３つの経営体を対象に，支援要望をもとに，法人化直後の経営管理の仕方を税理士や中小企業診断士の派遣，個別の巡回指導などにより，会計面や生産面，労務管理面などを集中的に支援してきました。

税理士による決算指導

昨年11月に実施した税理士による指導会の際には，固定資産の会計処理の仕方や消費税への対応などの助言により，資金繰り表の作成による年間を通じた計画的な資金運用とスムーズな決算を行うことができました。

また，法人化とともに規模拡大をした経営体では新規のハウスでの適切な施肥管理や病害虫防除といった生産技術面の課題がありましたが，継続的な個別巡回指導により病害虫の被害も最小限にとどめることができ，販売額の増加に結びつけることができました。一方で急激な雇用者の増加に伴う労務管理に課題があった経営体では，中小企業診断士からのアドバイスによって，就業規則作成や人材育成など，就業環境の改善への基盤が固められました。

さらに，そばの６次産業化を検討している経営体に対しては，６次産業化事業総合化計画の作成とともに投資計画の作成支援を行ったことで，今年半ばにそばカフェの開業が期待されています。

普及センターでは，今後とも農業経営の法人化及び経営の高度化を支援していきます。

優良な水稲種子の安定生産

いわでやま水稲採種組合（組合員52名，面積93.0ha）では，「ひとめぼれ」，「ゆきむすび」，「みやこがねもち」，「こもちまる」の４品種の水稲種子を生産しており，西大崎，岩出山，一栗，真山の４地区から構成されています。

昨年度から２年間，一栗地区（13名），真山地区（14名）の組合員を対象に，水稲種子生産における適切な生産管理や乾燥調製作業の支援に取り組みました。

そのうち，真山地区では県内で唯一，もち種子の生産が行われていますが，平成25年から一部でもち種子への異種穀粒（うるち米）混入が発生しています。混入の主な要因としては，隣接うるちほ場との花粉交雑，栽培管理時の混入や収穫・乾燥作業時の混入などが考えられました。

そこで，普及センターではＪＡいわでやま，採種組合と連携し，人為的事故防止のため，育苗時の生産者巡回や生産工程管理（ＧＡＰ）の導入を支援するとともに，花粉交雑防止を図るため，もち種子ほ場の団地化を進めました。さらに，収穫作業前に機械清掃講習会を開催し，清掃方法の再確認を行ったほか，機械の清掃終了後，各生産者を巡回し清掃状況の点検を行いました。

平成25年，26年は，生産物審査の合格数量が契約数量の７割に留まりましたが，このような取り組みの結果，平成27年は契約数量を達成することができました。しかしながら，一部では異種穀粒混入があり，生産物審査不合格となったことから，次年度も引き続き，ほ場の団地化を進め，収穫・乾燥機のもち専用利用を推進していきます。

優良種子の安定生産にあたっては，上記の異種穀粒の混入以外にも，種子伝染性病害であるばか苗病対策や異株や雑草のない採種ほとして適切な管理が重要となります。普及センターでは，今後も水稲種子生産者に対し，優良種子の安定生産に向けた取り組みを支援していきます。

機械清掃講習会における清掃点検

農産加工品の販売拡大による所得向上

大崎市古川にある農産物直売所「旬の店・シンフォニー」は，平成11年４月に女性農業者30名が中心となり開設し，地域に親しまれる直売所として発展してきました。しかし，近年では，地域の直売所やスーパーのインショップ販売などの増加による競争が激しくなり，品揃え強化や集客力向上が課題となっています。

そこで，普及センターでは，昨年度から２か年にわたり，直売所の売上向上の目玉となる農産加工品の品揃えを充実させ，集客及び売上を伸ばし，会員個々の所得向上を図るため，農産加工に意欲的な会員を対象に，商品開発などの活動を支援してきました。

消費者試食アンケートの様子

昨年度は，加工品の製造販売許可の取得や加工場の設備導入支援や，商品開発のための先進事例視察などを実施し，新たに２名の会員が米粉菓子や漬け物の製造販売を開始しました。今年度は，試食アンケートの実施により，消費者ニーズに基づく商品改良を支援したほか，「シンフォニー」の持つ“強み”の整理や，店舗をＰＲするパンフレットの作成支援などを実施しました。

このような活動の結果，これまでに米粉の洋菓子や根菜味噌，漬け物など新商品６品の販売が開始されました。普及センターでは，今後も新商品の販売促進，直売所の集客力向上を目指し，会員とともに活動していきます。

新商品「根菜みそ」

新たに製造販売された米粉菓子

新規就農者の紹介 ～管内で新たに就農した，若い担い手を紹介します～

・氏　　名：渡辺祐紀さん（平成６年生まれ）
・就農地区：大崎市古川
・経営内容
　平成24年に農業を営む実家に就農し，青年就農給付金を活用し、なすとしゅんぎくの施設栽培を行っています。病害虫防除技術を取得するとともに，栽培面積の拡大及び収量・品質の向上を目指しています。また，大崎４Ｈクラブに所属し，管内の若手農業者と共に，親子農業体験などの地域活動にも積極的に取組んでいます。

普及センター新メンバー紹介

氏名：水戸（みと）　裕也（ゆうや）
所属：先進技術班
専門：花き
出身：柴田町

大崎4Hクラブの活動紹介・会員募集

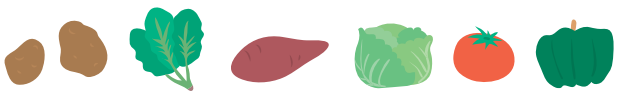
　４Ｈクラブは青年農業者の交流を通した農業・農村振興を目指し，様々な行事を催しています。
　今年度は新たに７名の会員が加入し，現在，20～30代の農業後継者19名で活動しています。以下，親子農業体験学習の取組を紹介します。
　大崎４Ｈクラブでは，大崎地域広域行政事務組合教育委員会及び仙台白百合女子大学と連携し，管内の小学生親子19組を対象に「親子でいっしょに農業体験」を開催しました。
　今年は加工トマトの栽培と食育をテーマに，計３回の農業体験を実施し，最終日にはトマトを収穫後，女子学生によるトマト料理の振る舞いや，クイズ形式の講義「食育のお話」が行われました。参加者から「楽しみながら食についての理解を深めることができた。」との意見が寄せられました。

「食育のお話」に耳を傾ける子供達

　大崎４Ｈクラブでは，新会員を募集しております。農業後継者同士の情報交換や農業を通じて仲間づくりをしたい方など，ぜひ参加をよろしくお願いします。年度の途中からの参加も大歓迎ですので，地域農業班までご連絡ください。
　年会費4,000円（入会初年度2,000円）

宮城県農林産物品評会・花き品評会

　去る10月17～18日，「みやぎまるごとフェスティバル」の会場において農林産物品評会及び花き品評会が開催されました。
　県内各地から出品された農産物の中から，当管内では５名の方々が入賞されました。



◎宮城県農林産物品評会受賞者
【知事賞】
［２等］ほうれんそう　片倉ヨウ 氏（色麻町）
［２等］な　す　　佐藤庄志 氏（大崎市古川）
［３等］だいこん　　髙橋純哉 氏（大崎市鳴子）
◎宮城県花き品評会受賞者
【金賞２席】農林水産省生産局長賞
　ば　ら　　末永純一 氏（大崎市古川）
【金賞３席】
　仙台中央卸売市場花卉仲卸協同組合理事長賞
　パンジー　㈱宮城フラワーパートナーズ（加美町）

R70 古紙配合率70% 白色度70 再生紙を使用しています。
PRINTED WITH SOY INK この印刷物には，100% 植物油型大豆油インキを使用しています。
この普及センターだよりは一部(31.75)円で1,800部作成しました。